2010年FIFAワールドカップ南アフリカ大会における得点（ゴールシーン）に関する研究

飯塚　遼介　（競技スポーツ学科　コーチングコース）
指導教員　植田　実

キーワード：シュートコース　シュート　コース別決定率

1.　緒言

2010年FIFAワールドカップ南アフリカ大会が、始めてアフリカ大陸で開催された。今大会は過去の大会に比べ、シュートの精度が約８％低下しているというデータが出た。そして1994年のアメリカ大会から南アフリカ大会までの、一試合平均のゴール数が大会ごとに減少している。（－0.45得点）

そこで本研究は今大会の得点に焦点を当て、その中で得点を決めるうえで重要なコースについて研究する。どのコースが得点に繋がっているのか、どのコースが得点に繋がりにくいのかを明らかにすることを目的とする。また映像や資料からシュートコースを分析する。そして著者自身の指導現場で役立つものにし、今後の日本サッカーの発展に繋げていきたい。

2.　研究方法

本研究の調査対象は2010FIFAワールドカップ南アフリカ大会であり、調査対象のDVD映像・文献からデータを収集し、どのコースにシュートが決まっているのかをまとめる。そしてシュートを打ったときの状況に応じ、カテゴリーを10項目に分類し、状況の違いにおいての差異を考察する。またすべてのゴール134本のシーンを抽出し、シュートを打った時の状況図を作成する。（PK・オウンゴールは除く）

3.　結果と考察

ゴールのサイドの低い位置に多くゴールが決まっており、左右のゴールが決まっているコースのパーセンテージを合わせると5割（58.1%）を超える結果となった。逆にゴールサイドの高い位置①、③のパーセンテージを合わせると、20.4%で2割程度であった。正面のコース②は同じ正面の低いコースの⑤に比べ、6.5倍の差異が見られた。

表１　全ゴール134（PK・オウンゴール除く）ゴールのシュートコース別決定率

① 8.95%	② 2.98%	③ 11.9%
④ 26.8%	⑤ 19.4%	⑥ 31.3%

本研究では、ゴールを狙うには低いコースでサイドを狙うことが最も得点に繋がっている。このことから、いかに④・⑥のコースに蹴りこめるか、またはヘディングシュートを打てるようになるかが重要であると言える。

4.　まとめ

ゴールが決まる背景は様々であり、シュートコースとは密接な関係にある。そのことを理解しプレーすることが、現在の日本サッカーの課題でもある得点力不足を解消していく事に繋がる。その第一歩として④、⑥のコースに多くゴールが決められているという事実を、もう一度再認識する必要がある。

参考文献

・原　博実（2006）　日本一わかりやすいサッカーの教科書，　PP.46～47.
・池田哲雄（2010）WORLDCUP　SOUTHAFRICA 2010，　週刊サッカーマガジン　増刊号.
・2010FIFA　WORLD　CUP　SOUTH　AFRICA　大会のすべて，総集編（DVD）.